先端データ解析論 (杉山将先生・本多淳也先生) 第4回レポート

ashiato45

2017年5月9日

宿題 1

$$e(\theta) = \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{n} \widetilde{w}_i \left(\sum_{j=1}^{b} \theta_j \phi_j(x_i) - y_i \right)^2$$
 (1)

とおく。e は下に凸な二次関数なので、微分が 0 の点を求めれば最小点を求めることができる。 $J=1,\ldots,b$ として、

$$\frac{\partial}{\partial \theta_J} e(\theta) = \sum_{i=1}^n \widetilde{w}_i \left(\sum_{i=1}^b \theta_j \phi_j(x_i) - y_i \right) \phi_J(x_i)$$
 (2)

となるので、これが0になるときを考えると、次の式を得る:

$$\sum_{i=1}^{n} \widetilde{w}_{i} y_{i} \phi_{J}(x_{i}) = \sum_{i=1}^{n} \widetilde{w}_{i} \sum_{i=1}^{b} \theta_{j} \phi_{j}(x_{i}) \phi_{J}(x_{i}). \tag{3}$$

これが各Jについて成立するので、

$$\Phi^{\top} \widetilde{W} y = \Phi^{\top} \widetilde{W} \Phi \theta. \tag{4}$$

よって、eを最小化する θ である $\widehat{\theta}$ は、

$$\widehat{\theta} = (\Phi^{\top} \widetilde{W} \Phi \theta)^{-1} \Phi^{\top} \widetilde{W} y. \tag{5}$$

宿題 2

対称性より、未知数 a,b を用いて $\widetilde{\rho}(r)=ar^2+b$ とおいてよい。 $\widetilde{(r)}$ は $(\widetilde{r},\rho(\widetilde{r}))$ で $\rho(r)$ に接するので、 $\widetilde{\rho}'(\widetilde{r})=\rho'(\widetilde{r})$ と $\widetilde{\rho}(\widetilde{r})=\rho(\widetilde{r})$ とを満たす。これは、 $2a\widetilde{r}=\rho'(\widetilde{r})$ と $a\widetilde{r}^2+b=\rho(\widetilde{r})$ を得るので、これを解いて

$$\widetilde{\rho}(r) = \frac{\rho'(\overline{r})}{2\overline{r}}r^2 + b \tag{6}$$

となる。

宿題 3

Python 実装は付録にある。 $\eta = 1$ とした。結果、図 1 を得た。

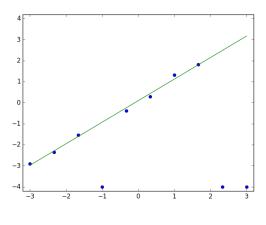


図 1

付録